

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名： **アドミッションセンター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
国際バカロレア入試合格者への入学前教育支援及び入学後の修学支援を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際バカロレア(IB)入試合格者への入学前教育について、任意ではあるが科目等履修生として科目を選択することが出来る制度を策定している。アドミッションセンターから入学者のあったマッチングプログラムコースへ教育委員を選出し、履修のアドバイザーを実施した。 2. 今年度のIB入試合格者に対し数学・化学の入学前教育を実施した。 3. IB入試入学者に対しノートパソコンを貸与し入学後の授業効率を図った。 4. アドミッションセンターの学生広報スタッフに対し、効果的なプレゼンテーション手法等を指導したうえで本学主催の説明会等に参加させた。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
入学前教育支援等報告書	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
入試の在り方と改善に関する次の調査・研究を行い、入試の改善を検討する。 1. 入学者選抜方法の分析と妥当性の調査を行う。 2. 学生の成績追跡調査(入試時の成績、在学時の成績)を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. アドミッションセンターでは、部門制を導入し、研究開発部門、入試広報部門、データ解析室を設置した。また、データ解析室を中心に、選抜方法毎の追跡調査や入学情報分析の調査・研究に基づき、受験生の能力・適性等の多面的な判定、受験機会の複数化などの諸課題の解決に向けて検討した。 2. アドミッションセンターセミナーを開催し、各学部に入学者の追跡調査の分析結果等を配付し学部の入試改善に寄与している。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
各学部配布する分析報告書	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
高校からの求めに応じ、高大連携事業に積極的に協力する。 学部・大学院入試の出題・点検体制の改善に努め、出題ミスが生じない体制を構築するとともに、試験実施等においても入試ミスが発生しない体制を構築する。 2. 優秀な学生及びグローバルに活躍する学生の確保 受験生のニーズを踏まえ、オープンキャンパスの在り方を検討するほか、学外オープンスクール及び海外説明会等の入試説明会の開催、受験生応援メールマガジンの配信、広報用印刷物の作成等、入試広報の充実にも努める。 3. 多様な入試方法の検討 AO入試、推薦入試及び社会人入試を含む多様な入試方法の在り方について、継続的に検討する。 4. 国際バカロレア入試の改善 グローバルに活躍する学生を確保するとともに、文部科学省から要請のあった受入拡大を実現するため、春入学入試の出願資格の緩和及び実施学部の拡大に努めるとともに、初めて実施した秋(平成25年10月)入学入試を踏まえ平成26年10月入学入試のスケジュール等を改善する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校への訪問数は106校を数え、企業等主催の入試説明会40回、企業等主催の講師派遣28校や高等学校の大学訪問34校の対応など積極的に参加している。 2. 入試広報として、高校教員対象の入試説明会(9回)、主に高校生を対象とした教育と入試説明会(1回)、学外オープンスクール(参加希望学部帯同:4回)、進学ガイダンス(4回)、本学主催の高校説明会(1回)等を開催した。 3. 入試説明会やオープンキャンパス等で本学と接触のあった高校生のうち、2万人近くの希望者に月1回程度メールマガジンを配信した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
高大連携事業対応報告書	
④センター業務	自己評価
④-1 目標	
1. 入試ミスの防止 学部・大学院入試の出題・点検体制の改善に努め、出題ミスが生じない体制を構築するとともに、試験実施等においても入試ミスが発生しない体制を構築する。 2. 優秀な学生及びグローバルに活躍する学生の確保 受験生のニーズを踏まえ、オープンキャンパスの在り方を検討するほか、学外オープンスクール及び海外説明会等の入試説明会の開催、受験生応援メールマガジンの配信、広報用印刷物の作成等、入試広報の充実にも努める。 3. 多様な入試方法の検討 AO入試、推薦入試及び社会人入試を含む多様な入試方法の在り方について、継続的に検討する。 4. 国際バカロレア入試の改善 グローバルに活躍する学生を確保するとともに、文部科学省から要請のあった受入拡大を実現するため、春入学入試の出願資格の緩和及び実施学部の拡大に努めるとともに、初めて実施した秋(平成25年10月)入学入試を踏まえ平成26年10月入学入試のスケジュール等を改善する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入試ミスの防止について、出題・点検体制の改善に努め、今年度は作題会議で会議室から協議中の問題等を持ち出さないよう会議室内でコピー、裁断、修正が出来るようノートパソコンや複合機、断裁機を設置し改善した。 2. 今年度はオープンキャンパスにおいて、新たに学長の講演や全学の説明会を実施するなど改善を行った。 また、海外(オランダ、ドイツ、ベルギー、フランス、シンガポール、中国、ニュージーランドの7ヶ国)のIB校で積極的に説明会を実施し、着実に志願者を増やしている。 3. AO入試、推薦入試の見直しを行い、環境理工学部ではAO入試を廃止し、推薦入試に学部でそえるなど改善を図っている。 4. 平成26年度10月入学では、出願時期を改善した結果、志願者が増加した。 また、IB入試の全学導入のため未実施の文学部、法学部、経済学部、医学部医学科、歯学部、薬学部、に説明会を実施した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
・入試説明会等の実施報告書 ・学部入試の志願倍率一覧表(過去10年分)	
【総括記述欄】	
<p>平成26年度入試では、全国の国立大学総志願者数が5,962人(前期日程)減少する中、本学でも前期日程で昨年の3,910人から3,629人となり、281人の減となったが、3年前の3,504人から比較すると高位安定となっている。</p> <p>また、国際バカロレア入試について、グローバルに活躍する人材を育成するとともに、新たに平成25年10月入学入試の結果を踏まえ、平成26年度10月入学入試において海外大学の出願時期等を考慮し、出願時期を早めるなど改善を図り、国内外のインターナショナル校等へ説明会を実施の結果、志願者6人を達成した。</p> <p>なお一層優秀な学生を確保するため、入試広報活動の充実はもとより、国際バカロレア入試の志願者拡充を図るため、4月入学入試の実施学部を全学部に拡大するとともに出願資格の見直しを検討するほか、さらに、大学院入試の出題ミス防止の徹底、平成27年度入試で旧課程履修者に対する配慮、入学者選抜方法の分析、学生の成績追跡調査等を行うこととしている。さらに、アドミッションセンター年報の作成。入試広報については、新たに広島大学と連携した説明会の実施について議論し、次年度から6か所の共同実施をすることとした。</p>	